思い出いっぱい

卒業生・修了生インタビュー

「市場めし」の考案に挑戦

金井　里紗さん

マーケティング学科、石川和男ゼミ、長野県松本蟻ケ崎高＝モンテール

3年次に課題解決型インターンシップで川崎北部市場の「市場めし」を考案するプロジェクトのリーダーを務めました。

半年の活動期間中、さまざまな問題にぶつかりました。メンバーのやる気を引き出すため明確な役割を与え、積極的に企画に参加してもらいました。市場、役所、学生で何度も話し合い、労力や手間を惜しまず、一般の方が市場に関心を持ってくれることを第一に考え「3色ユッケの市場ん丼」を完成させました。

商品開発に携わり、大変さとそれ以上の達成感を味わうことができました。将来、自分の考えた商品が店頭に並ぶことを夢見て頑張ります。

人を尊重するリーダー目指す

安田　祥佑さん

マーケティング学科、瀬下博之ゼミ、岡山県作陽高＝第一生命

先生の指名でゼミ長を務めました。心がけたのは委縮せず、活発に学べる雰囲気づくり。先生の厳しい言葉を伝える時も、意図をくんでソフトに伝え、フォローも欠かしませんでした。卒論提出が遅れていた仲間の件で先生に相談した際「安田が頼むのなら」と猶予をいただいたことも。先生や仲間からの信頼を実感した出来事でした。

リーダーは引っ張るだけでなく、メンバーを支えながら全体の底上げを図ることも大切だと学びました。社会に出ても人の意見や気持ちを尊重することを忘れずにまい進していきます。

学問と実務を共に身につけた

宮内　美香さん

3面川島賞記念学術賞の項参照

商学を体系的に学びたいと思い入学しました。実務は専門分野に偏り体系的な理解が難しく、理解していなくても習慣でできてしまうこともあります。しかし、学問は課題を理解して解いていかなくては次に進めません。商学基礎、経営組織、リスクマネジメント、民法総則などの講義は学問と実務がクロスし、職場でもコミュニケーションが取りやすくなりました。

4年間、学術奨学生になり、最後に学部総代と川島賞も受賞でき、努力が結果に結びついたことで自信につながりました。今後も、人間としての幅を広げながら、勉強を続けて行きたいです。

ゼミの活動で「日本」再発見

新岡ほのみさん

日本語日本文学科、板坂則子ゼミ、青森県青森南高＝ノエビア　12面に写真

大学は「座学の場」ではない、自ら動くことでさまざまな経験を積める。そんなことを実感した4年間でした。特に板坂ゼミでは貴重な体験をしました。

ドイツや韓国の大学とのネット共同授業では、日本文学・文化を学ぶ海外の学生と意見交換をしました。専大図書館所有の戯作本、浮世絵を展示する企画展では、学生の目線で江戸中期の戯作を解説し、紹介する機会を与えられました。

活動の中から、いままで気がつかなかった日本文化の素晴らしさや日本語の奥深さを発見、本を読み、活字を追う楽しさも覚えました。

昨年、母が申し込んだ郷里・青森の「ミスねぶた」コンテストで準ミスに選ばれ、県外でねぶた普及活動に参加したことも忘れられない思い出に。学生生活最後の年に〝ねぶた大使〟の一員として、大好きな青森の魅力を広める一役を担ったことは、この上ない喜びです。

バンド活動で学んだ協調性

竹村　総平さん

日本語日本文学科、小野隆ゼミ、高知県土佐高＝テレビ高知

軽音楽研究会に入り、ギターとボーカルを担当。ピアノの経験はあったのですが、ギターは全くの初心者。時間があればギターに触れ、多い時には4つのバンドを掛け持ちして練習を重ねました。3年次ごろからは、メンバーの音を聴きながら気持ちを合わせて演奏できるようになりました。年に何度かライブもやり、度胸もつきました。

バンドで学んだことはお互いを尊重することの大切さ。ひとりよがりにならないバランス感覚が必要だと感じました。

卒業後は地元のテレビ局で視聴者の声に耳を傾けながら、よりよい番組づくりを目指します。

「ふるさと」の魅力を伝えた

秋山　萌さん

ネットワーク情報学科、小林隆プロジェクト、福島県田村高＝東邦銀行

リーダーを任された3年次のプロジェクトでは新潟県村上市高根地区の農家と消費者をつなぎ、人が集まるコミュニティーづくりを手伝いました。現地に何度も足を運んで、田植え、草取り、稲刈りなど、農業を体験。自然と共に生きる人々との触れ合いに大きな感銘を受けました。美しい風景や素朴な生活に接する中で、高根地区の魅力を伝えるには写真が効果的だと考え、ホームページを制作。夏・秋の祭りでも写真を展示しました。高根の人たちには「ふるさとの魅力を再認識できた」と好評でした。

交流の場作り「体験」を共有

長沢　成暁さん

ネットワーク情報学科、上平崇仁研究室、神奈川県法政大学第二高＝サイバーエージェント

3年次のインターンシップで、熱意とスキルを持った他大学の学生と出会い、自分の未熟さを思い知らされました。しかし、この挫折から目標が生まれました。学外で得た経験を広めるため、学生同士の意見交流の場を設けたり、仲間と協力して就活座談会を開催し、後輩の相談に乗ることもしました。学外で得た経験を仲間とシェアすることで、私たちの学びはいま以上に有意義なものになると確信しています。

これらの活動は一人では実現しなかったものばかりです。同期、後輩、そして多くの学びを与えてくださった先生方に心から感謝します。

就職課の支援で希望の内定

森　万純さん

人文学科、出岡宏ゼミ、埼玉県さいたま市立高＝積水ハウス

住宅業界を目指していましたが、内定をいただいたのは他の業種。しかし友人が住宅メーカーの内定を得たことを知り、住宅業界で働きたいという思いが強まり、やむなく内定を辞退。一から就活を再スタートさせました。就職課の方の多大な支援に感謝しています。おかげで希望通りの就職がかないました。

住宅の購入は、人生の大きな出来事です。お客さまも自分も納得できるように住まい探しを手伝い、購入後の生活もサポートできるよう、努力していきたいです。

思い出と感謝琵琶の音に込め

王　天舒さん

3面川島賞記念学術賞の項参照

日本語と英語を学びたいと思い、英語英米文学科に入学。当初は日本語がよく分からず、大変でしたが、地道に努力を続けました。友だちのサポートや先生のご指導のおかげで、卒業を迎えることができました。思いがけず川島記念学術賞を受賞でき、とてもうれしいです。

母の手ほどきで4歳から中国琵琶を続けています。琵琶を介した中国文化の紹介にも力を入れ、川崎市国際交流協会で演奏を行いました。多くの人と出会い、自分の世界が大きく広がりました。

卒業式でも演奏する機会をいただき、大変光栄です。思い出深い4年間を振り返りながら、皆さんの晴れの門出を祝し、心を込めて奏でます。

大学院

母国以外の国で日本語教師に

高（コ）　朝順（ジョスン）さん

3面博士後期課程総代の項参照

出身は韓国ソウル。SMAPにあこがれ、日本語の雑誌を読めるようになりたいと高校生から勉強を始め、日本語を学ぶ楽しさを知りました。ワーキングホリデーを利用して来日。日本語学コースのある専大に留学しました。

日本語の教師になりたい、それも母国・韓国以外の国で教えたい――と強く思うようになったのは、3年次に米オレゴン大学の日本語教育実習プログラムに参加してから。6週間、日本語学科の学生たちに向け、教案やテストも考えました。コミュニケーションの取り方に始まる実践力を養い、言語体系によって教え方が違ってくることを身をもって学びました。

専大では9年間お世話になり、学部ゼミと大学院の指導教授である備前徹先生のもとで、日本語教授法はもちろん、論文の読み方、書き方をみっちり学び、研究に役立てました。集大成である博士後期課程の研究テーマは日本語学習者の継続意識。日韓の学生を比べて論文にしました。

卒業後は再びオレゴン大に行き、プロの日本語講師を目指したいと思っています。

吃音に悩んだが声出し新世界に

福田　洋佑さん

3面修士課程総代の項参照

吃音者は、その原因の特定が難しく、話し方がそれぞれ異なることなどから周りから誤解を受けやすく、他者とのコミュニケーションの努力も封じられる場合があります。緊張すると「ありがとう」さえ口から出てこない。私も小学生のころから悩みを抱えていました。

専大に入学後「自分を変えたい」と思い、受験生に専大の魅力を紹介する入学センター学生スタッフになりました。

初めての〝出番〟では、スラスラと話すことはできませんでしたが、自らの体験や入学の動機を披露したところ、彼らはじっと耳を傾けてくれ、「専大を受験したい」と言ってくれる高校生もいました。この経験で世界が開かれ声を出す喜びを知り、新たな一歩を踏み出しました。

児童養護施設でのボランティアや、吃音の子どもたちのサポートに励んだことも思い出。支援というよりも寄り添うことを心がけてきました。

学部、大学院を通じ、いつも温かく見守ってくださったのは指導の嶋根克己先生。卒業後は専大での体験を生かし、障がい者の療育、就労支援をする仕事に就きます。

課題と格闘し先生にお返し

小湊　美佳さん

3面法科大学院修了者総代の項参照

素晴らしい先生方や仲間たちに恵まれ、人生の宝物のような3年間を専大の法科大学院で過ごしました。

先生方の指導は細やか。授業は民法、刑法、国際私法など、どの科目も面白いのです。研究室の門をたたくと時間外でも実に丁寧に質問に応じてくださる。これが双方向授業なのだと感じました。

このような先生方の指導を受けているのですから、出された課題には一生懸命、取り組みました。自分の持っている知識を〝総動員〟し、最高の表現で論文を書こうと格闘。授業は一度も休まず、これまでこれほど勉強したことはありません。

院生たちとは授業から自習室までいつも一緒。一段落したら神保町界隈（かいわい）に繰り出し、語り合いました。そこに先生が参加されることも。

出身は長野県飯山市。金沢大学法学部を卒業後、東京で就職しましたが、一生を通じてできる仕事をと法曹の道にチャレンジ、「専大は面倒見のいい大学」と聞き、入学しました。

3年間の思い出と蓄積を糧に、司法試験に挑みます。

2012年度　専修大学卒業生数

学部	学科・専攻		一部	二部	計
経済	経済		540	92	864
	国際経済		232	―	
法	法律		604	156	909
	政治		149	―	
経営	経営		646	―	646
商	商業		4	0	864
	マーケティング		508	124	
	会計		228	―	
文	日本語日本文学	日本語学	81	―	681
		日本文学文化	132	―	
	英語英米文		138	―	
	人文	哲学人間学	48	―	
		歴史学	92	―	
		環境地理学	60	―	
		社会学	81	―	
	心理		49	―	
ネットワーク情報	ネットワーク情報		278	―	278
合計			3870	372	4242

2012年度　大学院修了者数

研究科	専攻（コース）	修士課程	博士後期課程	計
経済学	経済学（ファイナンス以外）	29	0	29
	経済学（ファイナンス）	0	0	
法学	民事法学	―	0	9
	公法学	―	1	
	法学	8	―	
文学	日本語日本文学	9	1	40
	英語英米文学	2	0	
	哲学	3	0	
	歴史学	7	0	
	地理学	2	0	
	社会学	3	0	
	心理学	12	1	
経営学	経営学（経営学）	8	0	9
	経営学（情報管理）	1	0	
商学	商学（アカデミック）	3	0	26
	商学（ビジネス）	3		
	会計学（アカデミック）	4	1	
	会計学（ビジネス）	15		
合計		109	4	113

※上記修了者の他に、学位規定第14条第1項のただし書きによる学位取得者が6人います。

2012年度　専門職学位課程修了者数

法務研究科	法務専攻	47